

子どもを真ん中にした地域ぐるみの学校支援で、学校が元気に！地域が元気に！

とんぐり村の こみ・すく通信

令和3年3月9日発行 第32号
更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団の活動を紹介<その18>

村助産師による「性教育」 正しい知識をもっともらうために

更別中央中学校2年生が2月18日に、子育て応援課助産師の中谷良子さん、母子保健係長の藤平さつきさんに来校いただき、「命の誕生と性」について学びました。

始めは、生徒全員が生まれたばかりの赤ちゃんとはほぼ同じ大きさ・体重である人形を「抱っこ」させてもらいました。大事そうに首の部分を支えながら、次の人に渡していました。



「赤ちゃんです。」そーっと次の人に渡す

授業は、人間の命のはじまりから、人間の性のあり方、性の多様性、人権に至るまで幅広い内容についてでした。自分の体(プライベートゾーン)を守るために嫌なことは、はっきりと断るスキルも身に付けておく必要性も教えていただきました。

後半は、思春期の身体の変化や性感染症、妊娠は命のはじまりであることや予期せぬ妊娠について触れ、性行為には責任が伴うことを強調して伝えていただきました。

「性について正しい知識をもち、必要な時に適切な判断ができ、相手も自分も守れるように選択していく力をもっていてほしい。」という言葉が心に残りました。現場の助産師だった方からの「命の誕生と性の授業」は重みがありました。



【助産師
中谷さん】

私たち助産師が赤ちゃんを取り上げた時、お父さんもお母さんもおじいちゃんもおばあちゃんもみんな泣いて喜んだ命です。

間違いなくみんな望まれた大切な命だということを忘れないでください。

皆さんの命はまだ蕾です。蕾のまま枯らすことなく大切な命の花を咲かせてほしいです。

消防士から救急救命法を学ぶ

更別中央中の3年生が3月5日に更別消防署の斎藤さんをはじめとする3名の方に来校いただき、「救急救命法」を学びました。

昨年9月の十勝毎日新聞に次のような記事が掲載されました。心臓に持病がある本別中の3年男子生徒が体育の授業中に心肺停止状態になり、その異変に気がついた先生や生徒が連携して、119番通報やAEDを使った心肺蘇生法を実施し、命を救ったのだと。救命講習などで学んだことが友だちの命を救うことにつながったのです。



胸部圧迫(心臓マッサージ)とAEDの使い方を学ぶ



胸部圧迫の場所は、胸の真ん中です。胃部ではありません。

救える命は救いたい。3年生は教えてもらった救急救命の流れに沿って、真剣、且つ熱心に授業に取り組んでいました。

体験入学 更小で開催



感染症対策のため、広がって話を聞きました。

更別幼稚園と、とんぐり保育所の年長児が、1年生の先輩たちと一緒に体育の授業を体験しました。

色おにや玉入れ、フラフープの「けんけんぱー」など、楽しそうに活動していました。